

試験研究成果普及情報

部門	稲	対象	普及
課題名：品質を重視した水稲もち新品種「千葉糯 23 号」の好適な生育相と収穫適期			
[要約] 「千葉糯 23 号」の成熟期は、4 月 20 日移植で 8 月 31 日頃、5 月 10 日移植で 9 月 10 日頃となる。基肥窒素は、4 月 20 日移植では 6 kg / 10a、5 月 10 日移植では 4 kg / 10a 施用し、穂肥を出穂前 18 ~ 10 日に施用すると好適な籾数が確保される。出穂後 36 ~ 42 日に収穫すると、千粒重 23g 以上の高品質米となる。			
フリーワード 水稲、千葉糯 23 号、施肥法、収穫適期、玄米外観品質			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・生産技術部・水田作研究室 協力機関 農林総合研究センター・育種研究所・水稲育種研究室		
実施期間	2 0 0 6 年度 ~ 2 0 0 8 年度		

[目的及び背景]

水稲のもち新品種「千葉糯 23 号」が育成された。もちとしての品質・食味は良好で、多収であることから、千葉県産もち米の評価向上に寄与する期待が大きい。一般栽培に向け、品質を重視した好適生育相及び収穫適期を明らかにする。

[成果内容]

- 1 「千葉糯 23 号」の成熟期は、4 月 20 日移植の「コシヒカリ」と比べ、同日移植では 6 日早く、5 月 10 日移植では 7 日遅くなり、収穫時期の競合を避けられる(表 1)。
- 2 「千葉糯 23 号」は、出穂期からの日平均気温の積算が約 900 ~ 1100 (出穂後 36 ~ 42 日) となったときに収穫を行うと、多収となり、品質は高くなる(図 1)。
- 3 m²当たり籾数 40,000 粒で多収となるが、籾数の増加に伴って千粒重は小さくなる。m²当たり籾数 28,000 ~ 30,000 粒で、千粒重は 23g 以上となり、精玄米重は 650kg/10a となる(図 2、図 3)。
- 4 幼穂形成期の茎数を 650 本/m²程度とすることで約 400 本/m²の穂数が得られ、これにより好適な m²当たり籾数が得られる(データ省略)。
- 5 基肥窒素量を、4 月 20 日移植では 6 kg/10a、5 月 10 日移植では 4 kg/10a とすることで好適な幼穂形成期の茎数が得られる。穂肥を早く施用すると一穂籾数が増加して品質が低下するので、穂肥は幼穂長 1 ~ 10cm(出穂前 18 ~ 10 日)とする(図 4、図 5)。

[留意事項]

- 1 基肥窒素量は、砂質土では 1 kg / 10a 多く、粘質土では 1 kg / 10a 少なく施用する。
- 2 壤土の半湿田では、穂肥窒素施用量は 3 kg / 10a を基本とする。

[普及対象地域] 県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 「千葉糯23号」と「コシヒカリ」の
移植時期と成熟期の差

品種	移植期 (月/日)	成熟期	
		2007年 (月/日)	2008年 (月/日)
千葉糯23号	4/20	8/30 (-4)	8/28 (-7)
コシヒカリ	4/20	9/09 (+6)	9/11 (+7)

注) ()内は、4月20日移植「コシヒカリ」
との成熟期の差

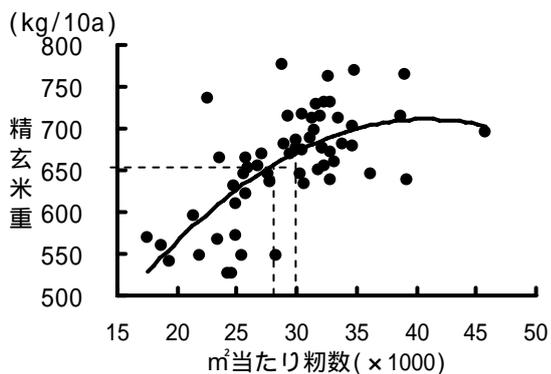


図2 「千葉糯23号」における m^2 当たり籾数
と精玄米重の関係

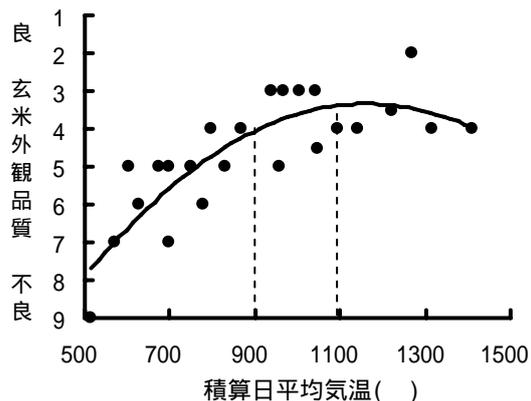


図1 収穫時点の積算気温と
玄米外觀品質の関係

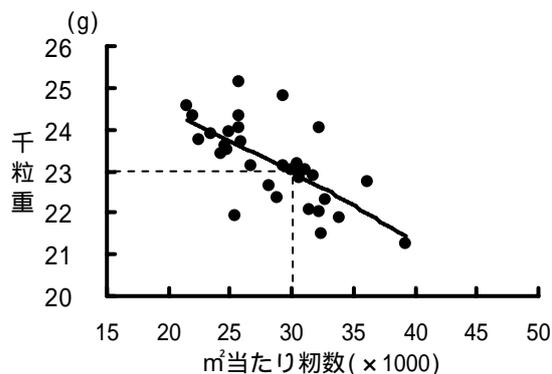


図3 「千葉糯23号」における m^2 当たり籾数
と千粒重の関係

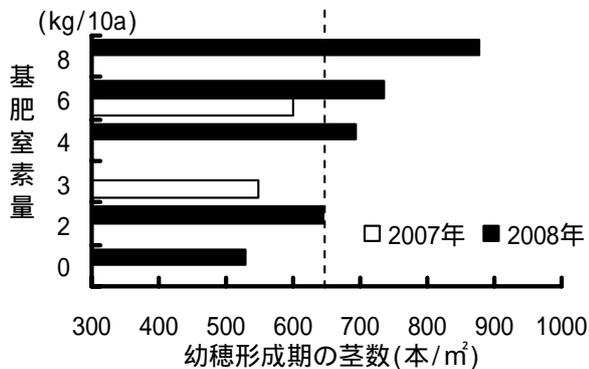


図4 5月10日植「千葉糯23号」における
基肥窒素量と幼穂形成期の茎数との関係

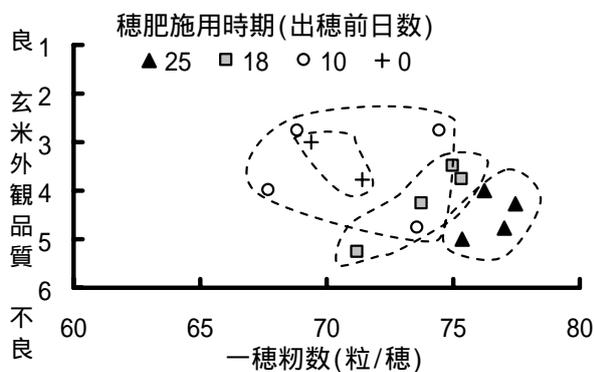


図5 「千葉糯23号」の穂肥施用時期の違いと
一穂籾数及び玄米外觀品質との関係

[発表及び関連文献]

平成20年度試験研究成果発表会(作物部門)

[その他]